

この1年間で、校長室だよりには、たくさんの方々に登場していただいた。その多くは、S先生、Tさん、Y先生などとアルファベット表記にさせていただいた。確認はしていないが、登場回数ランキング1位がSS先生だと思う。この紙面には、様々な要素が入っているが、ある見方をすれば、SS先生の成長記録という一面もある。

SS先生は、初任者として野田中学校に現れた。今でも覚えている。初々しいというか、新社会人らしい姿だった。その後、彼は、月日を重ねながら変わっていった。そうなった大きな要因は、人である。彼を取り巻く先輩同僚である先生方の存在である。

この紙面に登場していただいた生徒指導主事のSY先生、ミスターICTのH先生、進路指導主事のK先生、同じ英語科担当であるS先生、社会科のI先生、隣の席で面倒を見てくれているA先生、皆さんSS先生と同じ学年のメンバーである。そして、いつも温かく包み込むように見守ってくれている学年主任のT先生やY先生がいる。

こうしてみると彼は恵まれているのかもしれない。いや、彼が出会いを生かしているのだと思う。チャンスを自分のものにしていく。なぜ、それができるのかというと、彼には謙虚さがある。誠実な人柄を持ち合わせている。

問題は、どうして彼がそういう人になったのかということである。いつだったか、彼に聞いてみたことがある。「あなたは、何でそういう人なの？」答えられるわけがない。私が答えた。「たぶん、親御さんのおかげだと思うよ」

彼は、決して口数が多い方ではない。おしゃべりなタイプではない。そんな彼が、いつだったか、こんな話をしてくれた。「母親に校長室だよりのことは言ってなかったのですが、どうやら見つけたらしくて、私のことが出ていると、電話がくるんです」この話を聞いて、私は「そうか、そうかそれはうれしいなあ」と答えながら涙を浮かべていた。

振り返ると、4月に初めて給料が出た日には「お母さんに、何かプレゼントでも買いなよ」ゴールデンウィーク前には「実家には帰っているのか。ちょっと帰って元気な顔を見せてこいよ」お盆前には「ちゃんと帰れよ」年末には「実家に帰ってゆっくりしてこいよ」ずっとこんなことを言っている。どうしても親御さんのことを思ってしまうのである。

こんなことも言ったことがある。「SS先生は大変だな。あと42年もあるからな。40年は長い」彼にとって、この1年は、1/43年ではない。後でわかることだが、大きな大きな1年である。3学期になって彼の顔つきが変わってきた。何だか精悍さが出てきたように思う。先輩方に教わりながら、常に先輩方の傍にしながら、それだけの仕事をしてきた。余裕も出てきた。

卒業式の日のことである。3学年担当のSS先生が礼服を新調し、初めて着た。この姿を画像に収め親御さんに見せたいと考えた。「SS先生、ちゃんとラインで送るんだよ」

この紙面をお借りして、SS先生の親御さんにお伝えしたい。「息子さんが、野田中学校に来てくれた幸運に感謝しています。そして私は、彼との出会いに感謝しています。息子さんは、この1年で着実に成長を遂げました。これからも彼は、いろいろなことを吸収し、考え、判断しながら立派な教員になっていくはずですよ。そして自立した人間として成長していくことと思います。もう少しの間、野田中学校の先生方も私も、息子さんの成長を間近で見ることができていることを楽しみにしています。これからも、よろしくをお願いします」